

平成 26 年度 職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進
「職業実践専門課程」制度創設に伴う取組の推進事業

事業名

「イストラクショナルデザインおよびアクティブラーニングを使い
こなす教員養成研修モデルの開発・実証」

一般社団法人全国専門学校教育研究会

第 3 回 実施委員会／第 4 回 開発・実証委員会／第 5 回 評価委員会
合同委員会 次第

日 時 平成 27 年 1 月 14 日（水） 14 時 00 分～16 時 00 分
場 所 グランドヒル市ヶ谷 西館 3F 「ペガサス」
〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町 4-1 TEL:03-3268-0111

1. 開 会

2. 主催者挨拶

一般社団法人全国専門学校教育協会 会長 浦山 哲郎

3. 議 題

(1) 各分科会における教材開発、研修プログラム、実証講座結果の報告

・ I D シラバス概要	・ ・ ・ ・ ・	P. 03
・ I D 講師用指導要領（案）	・ ・ ・ ・ ・	P. 05
・ I D 研修タイムスケジュール	・ ・ ・ ・ ・	P. 12
・ A L 研修タイムスケジュール	・ ・ ・ ・ ・	P. 13

(2) 評価委員会における評価方針および途中結果の報告

・ I D 実証講座の評価について		
・ A L 実証講座の評価について	・ ・ ・ ・ ・	P. 15

(3) 成果報告会に向けて

・ 日程表	・ ・ ・ ・ ・	P. 17
-------	-----------	-------

4. 閉会

- 【別資料】
- ・ 実証講座テキスト インストラクショナルデザイン
 - ・ 実証講座テキスト アクティブラーニング
 - ・ ID 分科会議事録、AL 分科会議事録（第 4 回、第 5 回）

平成26年度

一般社団法人 全国専門学校教育研究会

「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証

第3回 実施委員会／第4回 開発・実証委員会／第5回 評価委員会 委員紹介一覧

(順不同/敬称略)

	氏名	所属先	役職	委員会	
1	浦山 哲郎	一社) 全国専門学校教育研究会 学校法人浦山学園	会長 理事長	事業統括 実施委員長	
2	井本 浩二	一社) 全国専門学校教育研究会 専門学校 YIC グループ	副会長 代表	実施委員	
3	佐竹 新市	学校法人龍馬学園	理事長	実施委員	
4	安藤 喬	学校法人三友学園	専務理事	実施委員	
5	松井 祥高	学校法人利幸学園	専務理事	実施委員	
6	國分 義史	学校法人明倫館	理事長	実施委員	
7	山崎 彰	学校法人郷学舎	理事長	実施委員	
8	川崎 千春	学校法人新潟総合学院	常務理事	実施委員	
9	河原 成紀	学校法人河原学園	理事長	実施委員 評価委員	
10	中越 晃	学校法人九州国際学園	理事長	実施委員	
11	栗原 寛隆	学校法人栗原学園	理事長	実施委員	欠
12	川越 宏樹	学校法人宮崎総合学院	理事長	実施委員	
13	片岡 均	学校法人つくば総合学院	理事長	実施委員	
14	坪内 浩一	学校法人平成坪内学園	理事長	実施委員	
15	龍澤 正美	学校法人龍澤学館	理事長	実施委員	欠
16	山本 絵里子	学校法人山本学園	副理事長	実施委員	欠
17	鷺澤 文治	学校法人平青学園	専務理事	実施委員	
18	大平 康喜	学校法人穴吹学園	専務理事	実施委員	

19	大城 圭永	学校法人KBC学園	副理事長	開発実証委員 ID分科会委員	
20	中島 慎太郎	学校法人有坂中央学園	常務理事	開発実証委員 ID分科会委員	欠
21	龍澤 尚孝	学校法人龍澤学館	本部長	開発実証委員 AL分科会委員	欠
22	岡村 慎一	専門学校YICグループ	理事	開発実証委員 評価委員 ID分科会委員 AL分科会委員	
23	伊藤 慎二郎	学校法人穴吹学園	理事副校長	開発実証委員 AL分科会委員	
24	飯塚 正成	有限会社ザ・ライスマウンド	代表取締役	開発実証委員	
25	永井 真介	学校法人浦山学園 富山情報ビジネス専門学校	校長	開発実証委員 事務局	
26	小野 紘昭	一財) 職業教育キャリア教育財団 啓明学園	理事 理事	評価委員	
27	石田 敬二	株式会社東京海上日動キャリアサービス	執行役員事業部長	評価委員	欠
28	齋藤 進	株式会社エデュースホールディングス	代表取締役	評価委員	
29	下島 耕一	鹿児島情報ビジネス専門学校	本部長	事務局	
30	花田 香央理	鹿児島情報ビジネス専門学校		事務局	

	宮岡 良次	学校法人三友学園	事務局長	実施委員 代理	
	芦澤 昌彦	学校法人河原学園	自己点検評価室室長	実施委員 代理 評価委員 代理	
	高橋 淳	学校法人山本学園	教頭	実施委員 代理	

※ ID分科会委員＝インストラクショナルデザイン分科会委員

※ AL分科会委員＝アクティブラーニング分科会委員

シラバス概要（インストラクショナルデザイン）平成26年度

【シラバス（1）】

1. 科目名

「インストラクショナル・デザイン」

2. 研修形態

講義、演習、グループワーク、ワークシート作成等による

3. 履修時間

12時間

4. 研修の概要と目標

職業実践専門課程として企業等のニーズを取り入れるカリキュラム・シラバスの作成ができる教員の養成を目的とした。

企業のニーズ（知識・技術等）を学生がより高い水準で習得できるように、インストラクショナルデザインを用いて、産学連携などの多様な教育手法も活用し、体系的なカリキュラムの編成を行い、目標とする人材像に必須のスキル、もしくはその評価基準を可視化したシラバスの作成が行えるように構成した。事前にeラーニングで基礎知識を学んでから研修に臨んだ。

また、教員同士が相互フィードバックし、教育設計を学びあう仕組みと土壌を作成することも目的としている。今回の事前eラーニングは知識を得る場だったが、事後と合わせて、ゆくゆくはオンライン上で学校を超えた教員同士が学び合う仕組みを用意する予定である。

5. 研修テーマ及び研修項目

研修テーマ	研修項目
① 研修の目的	<ul style="list-style-type: none">・職業実践専門課程の教員として、企業が求める知識・技術等を、学生がより高い水準で習得できるように、インストラクショナルデザイン（以下 ID）を用いた体系的なカリキュラムの編成を行えることが目的であることを伝える・IDの事例紹介・職業実践専門課程とIDの関連図を使用して目的を説明
② カリキュラム	<ul style="list-style-type: none">・二日間のシラバスを紹介
③ システム的教育設計の概要	<ul style="list-style-type: none">・学校の目指す人材像、学科の人材像、科目の目標、授業の目標の関係を説明・ADDIEモデルで授業設計の流れを説明
④ グループワーク	<ul style="list-style-type: none">・授業計画の方法についてグループ内でディスカッション。学校で決められた手法があるかどうかなど。
⑤ 目標設定	<ul style="list-style-type: none">・目的と目標の関連・明確な学習目標の必要性と、3つのポイント
⑥ 演習・グループワーク	<ul style="list-style-type: none">・自分の授業の前提（入口）と目標（出口）を書く・グループ内発表

研修テーマ	研修項目
⑦課題分析	・ 3つの分析紹介
⑧演習・グループワーク	・ 自分の授業の分析図を階層分析で書く。(手順、クラスタでも可) 途中まででも可。 ・ グループ内で発表
⑨前日の振り返り	・ グループ内ディスカッション 「昨日を振り返っての感想・疑問・意見など」
⑩課題分析 (続き) 講義・演習・グループ内発表	・ 手順分析の応用を紹介 (階層分析が適している課題もステップに分解してから分析するとわかりやすい) ・ 昨日作成した階層分析図を手順分析に変更してみる ・ グループ内発表
⑪授業計画の作成	課題分析図から、シラバス、コマシラバスの流れを紹介 ・ シラバスの作成 演習・グループ内発表 ガニエの9教授事象、ARCS 紹介 ・ 1つの授業の指導方略表の作成 演習・グループ内発表
⑫教育の改善	・ 講義
⑬まとめ	グループ内で ID を使ってみてどうだったか、今後使おうと思うかどうか ・ ディスカッション ・ 模造紙にまとめる。 ・ グループを分解し壁に貼った模造紙を見て回る (ポスターツアー)
⑭アンケート	

6. 本科目の修了基準

知識を問う事後テストで8割の正答率、及び、コマシラバス (指導方略表) 作成演習で8割程度記述していること。完成していなくても修了とみなす。

◆今後、本科目の教案を作成する上での検討事項の概要

1. 想定される担当講師

ID を活用して授業設計をしたことがある教員を講師として育成。

2. 教員研修における本科目の位置付けや受講後の効果等

本科目は、まずは学内の ID 導入に関してリーダーシップを取れる教員に受けていただくものである。目標を設定し、教員も学生も目標達成のために何をするかという PDCA を実践できるので、専修学校教員として必要なプログラムである。

3. テキスト

オリジナルテキスト

4. 参考図書 (例)

鈴木克明 (著) 「教材設計マニュアル」

稲垣 忠 (著), 鈴木 克明 (著) 「授業設計マニュアル」

平成26年度インストラクショナルデザイン講師用指導要領（案）

<p>【1. 科目名】 「インストラクショナルデザイン」</p> <p>【2. 担当講師】</p> <p>【3. キャリアパス】</p> <p>【4. 必修・選択区分】</p> <p>【5. 研修形態】 講義、演習、グループワーク等による</p> <p>【6. 履修時間】 12時間（2日間）</p> <p>【7. 研修の概要と目標】 職業実践専門課程として企業等のニーズを取り入れるカリキュラム・シラバスの作成ができる教員の養成を目的とした。 企業のニーズ（知識・技術等）を学生がより高い水準で習得できるように、インストラクショナルデザインを用いて、産学連携などの多様な教育手法も活用し、体系的なカリキュラムの編成を行い、目標とする人材像に必須のスキル、もしくはその評価基準を可視化したシラバスの作成が行えるように構成した。事前に e ラーニングで基礎知識を学んでから研修に臨んだ。 また、教員同士が相互フィードバックし、教育設計を学びあう仕組みと土壌を作成することも目的としている。今回の事前 e ラーニングは知識を得る場だったが、事後と合わせて、ゆくゆくはオンライン上で学校を超えた教員同士が学び合う仕組みを用意する予定である。</p> <p>【8. 中堅教員研修における本科目の位置付け、受講後の効果】 本科目は、まずは学内の ID 導入に関してリーダーシップを取れる教員に受けていただくものである。したがって、中堅教員研修に位置付けられる。目標を設定し、教員も学生も目標達成のために何をするかという PDCA を実践できるので、専修学校教員として必要なプログラムである。</p> <p>【9. 本科目の修了条件】 知識を問う事後テストで 8 割の正答率、及び、コマシラバス（指導方略表）作成演習で 8 割程度記述していること。完成していなくても修了とみなす。</p>	<p>【10. 配布資料一覧】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①タイムテーブル及び参加者名簿 ②オリジナルテキスト ③テキスト内ワークシート別紙（要望があれば配付） ④研修会アンケート用紙（*研修2日目に記入、回収。） <p>【11. その他の配布物等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○名札 1人1個 ○模造紙 グループに2枚 ○模造紙用マーカー（黒、赤、青）グループに各2本ずつ <p>【12. 機材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○講師用 PC（スライド投影用） ○プロジェクター （可能であれば） ○受講者用 PC（ワークシート作成用。個人持参でも可） ○（成果物が紙の場合）カメラ、またはカメラ付タブレット、PC ※成果物を撮影して、プロジェクタで投影 ○タイマー ○マグネットかテープ（模造紙を張るため）
---	---

進行時刻 の目安	単元ごとのテーマ・項目	所要 時間	内容等	教材等	方式
(1日目) 13:00	オリエンテーション	10分	○開講のあいさつ、講師自己紹介	テキスト	
13:10	はじめに	10分	○研修のねらい ・開発の目的、講座の目標、そして ID とは何かを簡単に説明 授業はどのようにして設計しているか。前任の教員のシラバスをそのまま実行しているのではないだろうか。自分で設計した場合は、どのような考え方・手法で設計しているか。その手順が ID である。ID は教育の効果・効率・魅力を高めることができる。 ・対象 授業を設計した経験があまり教員、自己流に設計しているので自分のやり方の是非を確認したい、また若手の教員を指導する立場の教員にも適していることを説明 ・目標 ID の知識・手順を学び、自分の担当する授業の1回のコマシラバスを作成できることを目標とする。		
13:20	グループワーク	10分	○グループワーク（自己紹介と情報・課題共有） ・自己紹介（学校名、名前、担当教科、教員経験年数） ・事前Eラーニングで学習したことの感想 ・教員として今回参加した理由と授業への課題		
		10分	○グループ代表者からどんな意見が出たか発表		
13:40	はじめに（続き） 第1章システムの教育設計の概要	10分	○ID の概要、シラバスとの関連、ADDIE モデルを紹介 ○職業実践専門課程と ID との関係を図を使用して説明 ・企業のニーズが、学科・教科・科目の目標となる。教員はそれを学習の目標に落としてから、授業設計を行う。ID の ADDIE モデル（一般的には PDCA）を行うことで実践的な能力を育成することができる。 ・ID の利点、事例、様々な理論を紹介 今回とりあげなかった理論も含めて、いろいろな考え方がある。今回扱うことを知らせる。みなさんや、みなさんの学校で実践しているやり方も、（うまくいっていれば）インストラクショナルデザインなのだと伝える。		

進行時刻 の目安	単元ごとのテーマ・項目	所要 時間	内容等	教材等	方式
14:00	グループワーク	20分	○授業計画の方法について意見交換 グループ内でディスカッション。どのようにしてシラバス、コマシラバスを設計していますか？ グループの意見をまとめてもらう		
14:20	休憩	10分	～休憩～		
14:30	第2章目標設定	30分	○第2章の目標を提示 ○言葉の定義（目的、目標） ・目的はより高い（遠い）到達点で、目標はそこに達するために設定するもの到達点。目的は、大目標とか、「高次の」目標と言う場合もある。 ・このテキストでは、科目や1回の到達点を「目標」と呼ぶ ○学習目標の明確化 ・例示 ・目標を明確にする3つのポイント	目標設定練習シートを用意 (悪い例、よい例を載せる。何が違うか考えてもらう)	
15:00	ミニワーク	20分	・例示（ ○演習「学習目標を明確にする」 ・個人で5分、グループディスカッション10分（情報共有、自分と異なる視点の気付き） ・終了後、各グループからどんな目標があったか発表してもらう。 ○第2章のまとめ		
15:20	休憩	10分	～休憩～		
15:30	第3章学習目標の分類	20分	○第3章の目標を提示 ○学習目標は4つに分類することができる。 ・言語情報、知的技能、運動領域、随意領域 ○評価について、目標の分類とテストの関係 ・学習目標に達しているかどうかで評価する ・目標分類に適したテストを使う ・絶対評価、相対評価の紹介 かつて（2000年の前ぐらい）は、小中学校の成績は相対評価だったが、今では絶対評価。		

進行時刻 の目安	単元ごとのテーマ・項目	所要 時間	内容等	教材等	方式
15:50	演習	30分	<p>学習の評価は絶対評価であるべき。(目標を達成したら合格) 絶対評価の例：運転免許試験 相対評価の例：大学入試(定員があるので、上から何%合格等決めなくてはならない)</p> <p>・テストの種類(前提テスト、事前テスト、事後テスト)</p> <p>専門学校だと、前提テストで知識が足りなかったり、事前テストで満点だったりする人を断ることはできないだろう。ただし、教員が認識し、フォローの準備や体制を整えることができる。</p> <p>○演習「テストの作成」個人・グループ</p> <p>自分が担当している科目(予定)の半期、または1年の学習目標と、入口(前提知識・能力)を記入する。今やっていることをそのまま書くのではなく、見直し・改善の視点で考える。「理解する」「身につける」という言葉は極力使用しないこと。</p> <p>・ポストイットを使用する方法</p> <p>第目標を記述したら、それに至るまでに、何ができればいいのかをポストイットに書きだしてみる。(後の構成図でも使用できる)</p>	別紙ワークシートも用意(テキストと同じシート) Or ポストイット用別シートも用意	
16:20	グループワーク	20分	<p>グループ内発表</p> <p>・自分の専門分野でなくても、「理解する」「身につける」を使用していないか、などはフィードバックできる。また、学生がこの目標を見て理解できるか?という観点でフィードバックする。講師はグループを回り、ところどころ意見を言ったり質問に答えたりする。</p>		
16:40	代表者発表	20分	<p>グループ代表者前で発表(※スライドに映して。人数分コピーでも可。)</p> <p>※講師が見回って、完成度が高い方のものをセレクトして発表してもらってもよい。2, 3名。</p> <p>講師のフィードバック要。受講者からももらう。3つのポイント、言葉の使い方に注意。</p> <p>○第3章のまとめ</p>		
17:30	休憩	10分	<p>～休憩～</p>		
17:40	第4章課題分析	20分	<p>○第4章の目標を提示</p> <p>○課題分析手法の紹介</p> <p>・学習課題の分類に適した分析手法があることを紹介。 クラスタ分析、手順分析、階層分析</p> <p>・課題分析図の例紹介</p>		

進行時刻 の目安	単元ごとのテーマ・項目	所要 時間	内容等	教材等	方式
18:00	演習	25分	<ul style="list-style-type: none"> ・「演習」課題分析の練習（学生が自分から挨拶をするようにするには？）グループで ○前の演習で設定した目標を分析する。 ・おそらく。階層分析になると思われるが、クラスタ、手順を使用してもよい。明日続きの時間を用意しているので完成させるので、本日完成しなくても問題ないということを伝える。 		
18:25		5分	本日行ったことをふりかえり、講師の言葉でまとめる。質疑応答。		
(2日目) 9:00	振り返り（グループワーク）	5分 15分 15分	<ul style="list-style-type: none"> ○1日目の振り返り&アイスブレイク ・講師より行ったことを簡単にまとめて説明 ・グループディスカッション 昨日の内容を振り返っての感想、意見、疑問を話あう。あとで、どんな話がでたか、代表者発表ということを伝える。 ・代表者発表 		
9:35	第4章続き	20分	<ul style="list-style-type: none"> ○手順分析の応用編 ・セオリー通り考えると、階層分析である課題も、手順分析の応用で書くとわかりやすい。 ・例を見る 		
9:55	演習	25分	<ul style="list-style-type: none"> ○昨日作成（途中でOK）した、課題分析図の見直し ・もし、手順分析応用が使いやすければ、そちらで書き直してみる ・昨日のでOKの人も、時間があれば、手順分析応用で書き直してみる 	別紙ワークシートあり	
10:20	休憩	10分	～休憩～		
10:30	グループワーク	20分	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内発表 		
10:50		20分	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ代表者前で発表（※スライドに映して。人数分コピーでも可。） 		

進行時刻 の目安	単元ごとのテーマ・項目	所要 時間	内容等	教材等	方式
			<p>※講師が見回って、完成度が高い方のものをセレクトして発表してもらってもよい。2, 3名。講師、受講者によるフィードバックを行う。</p> <p>○第4章まとめ</p>		
11:10	第5章授業計画の作成	10分	<p>○第5章の目標提示</p> <p>○課題分析図、シラバス、コマシラバス（指導案）の関係を説明</p>		
11:20	演習	25分	○演習 第4章で作成した課題分析図からシラバスを作成する。1回の授業毎に目標を書くこと。（個人）		
11:45		60分	～昼食～		
12:45	グループワーク	20分	<p>・グループ内発表</p> <p>（・グループ代表者発表 時間があれば。※スライドに映して。人数分コピーでも可。）</p>		
13:10	第5章続き	20分	<p>○ガニェの9教授事象の考え方で、指導案（指導方略）を考えるとよい</p> <p>○例を紹介</p> <p>○ARCS理論の紹介（直接指導方略には使用しないが、学習内容を考えるいろいろなシーンで活用できるので紹介する</p>		
13:30	演習	30分	<p>○作成したシラバスの1回分を取り出し、指導方略表を作成する</p> <p>・個人で</p>		
14:00	休憩	10分	～休憩～		
14:10	グループワーク	30分	・グループ内発表		
14:40	代表者発表	30分	<p>・代表者発表（2～3人）。講師はコメントする。</p> <p>※スライドに映して。人数分コピーでも可。</p>		
15:10	休憩	10分	～休憩～		

進行時刻 の目安	単元ごとのテーマ・項目	所要 時間	内容等	教材等	方式
15:20	第6章教育の改善	10分	○授業計画の見直し（模擬授業にて評価もあり）、そして実施したあと、学生の達成度から授業を評価する。前者を形成的評価、後者を総括的評価という。		講義
15:30	まとめ	30分	○2日間振り返りを行う グループでのディスカッション ・IDを使用して見てどうだったか。これからIDを使っていくか。ID導入のメリット、デメリット等話し合ってもらおう。 ・模造紙にまとめる（1～2枚）		
	グループワーク	15分	ポスターツアーにてクラス全体で共有 ・模造紙を壁にはる。 ・グループメンバーを分ける（4グループで各4人なら、①～④をメンバーに割り振る） ・①の4人が集合して、1グループの模造紙の前に集合、同様に②の4人が集合して・・・） ・3分で、自分のグループの模造紙の前にいる人が、他のグループの人に説明をする。 ・時間がきたら、そのメンバーのまま、他の模造紙に移動。繰り返す		
	振り返り	15分	○講師によるふりかえり ・IDの良さ、ぜひ導入してほしい。最初は時間がかかるかもしれないけど、慣れてくれば短縮できる。ぜひ導入してほしい。学校でまだまだその流れがないのであれば、ぜひエバンジェリスト（伝道師）になってほしい。 ・今日のワークシートは財産。活用してほしい。 ○アンケート 解散		

インストラクショナルデザイン研修 平成 26 年 12 月 18 日、19 日実施
タイムスケジュール

1日目	概要	説明
13:00	オリエンテーション	・研修の目的等 ・講師自己紹介
13:10	1 システム的教育設計の概要	・職業実践専門課程とIDとの関係 ・IDとは ・グループワーク「現在の授業設計の手順について」
14:30	2 目標設定	・目的と目標 ・目標明確化の3つのポイント ・演習「明確な目標に修正する」
15:30 16:10	3.学習目標の分類	・4つの学習分野 ・評価の種類 ・テストについて ・演習「担当科目の半期・通期の目標設定」 個人30分、グループ内発表20分、代表者発表20分
17:30 ~18:30	4.課題分析	・課題分析の必要性 ・3つの分析手法 ・演習「担当科目の課題を分析する」 階層分析で行う(30分)
2日目	概要	説明
9:00	前日の振り返り	・グループ内で昨日の感想を話し合う ・発表
9:40 11:45	4.課題分析(続き)	・手順分析応用の紹介 ・演習「手順分析応用で課題分析図を作成し直す」 個人30分 グループ内発表30分 代表者発表20分
11:45-12:45	昼休み	
12:45	5 授業計画の作成	・シラバスの作成、コマシラバスの作成の手順 ・演習「課題分析図からシラバスを作成する」 個人25分、グループ20分、代表者発表30分
14:00 16:15		・ガニエの9教授事象 ・指導方略表 ・ARCSモデルの紹介 ・演習「授業計画作成」 個人30分 グループ30分 代表者発表30分
16:15	6.教育の改善	・形成的評価と総括的評価 ・ADDIEモデル
16:30	まとめ、アンケート	講師によるまとめ

2日目	概要	説明
9:00	ALセッション概要説明	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的背景 ・アクションラーニングとALセッション
10:00 11:00	ALセッション体験1	<ul style="list-style-type: none"> ・1チーム4名とALコーチ1名でセッション ・1名が問題提示。質問のみで会議を進める。 ・ALセッションを通して、介入スキルを理解する ・ALセッションを通して、自己の課題を明確にする アクションラーニング用ワークシート使用
11:00-11:15	ふり返り	15分
11:15	ALセッション体験2	<ul style="list-style-type: none"> ・2回目のセッション体験。チーム2人目が問題提示。 ・進行は1回目と同じ
12:15-12:30	ふり返り	15分
12:30-13:30	昼休み	
13:30 14:30	ALセッション体験3	<ul style="list-style-type: none"> ・3回目のセッション体験。 ・チーム3人目が問題提示。進行は同じ。 ・チームビルディングを体感する ・新しい「リーダーシップ」を体験的に理解する
14:30-14:45	ふり返り	・15分
14:45	ALセッション体験4	<ul style="list-style-type: none"> ・最終4回目のセッション体験。 ・チーム4人目が問題提示。進行は同じ。
15:45-16:00	ふり返り	・15分
16:00-16:15	アクションプランシート	・15分
16:30-17:00	まとめ、アンケート	講師によるまとめ。事務局からの連絡

2015.1.12

AL 実証講座の評価について

小野 紘昭

2014年12月20日～21日に開催されたAL実証講座（全12時間）を受講したが、アクティブラーニングとアクションラーニングについて、以下の3点から評価を試みたい。

(1) 教育手法としての実効性について

2014年12月に中央教育審議会は「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」をまとめた。

それ以来、知識の修得を基本とする受け身的な教育から能動的な学習へと転換を図ろうとする動きが急である。小中学校で進む学習方法の転換の延長線上に高大に能動的学習の実現を目指そうとしている。

こうした、流れからすると専門学校での学習方法にも生徒・学生が能動的に知識やスキルを修得していく新たな教育手法が求められていることは論を待たない。その一つの方法論としてアクティブラーニングを活用していくことは有効なことであろう。特に、グループダイナミズムを使いながら、個人の学習意欲を喚起し課題の達成感を味わわせることは、以前から企業研修では有効性が実証されており、特に新しい手法ではない。

ただ今回の講座では、1日目に学習するアクティブラーニングは目標の明確化、グループ学習、リフレクションなどの一連のプロセスを重視する学習手法である。これに対して、2日目のアクションラーニングは課題を共有し合いながらグループ学習を行い、そのプロセスの中で組織全体に学習する力をつけるという組織開発の手法である。そのため、厳密な意味で、アクションラーニングが今回の委託事業の目的に合っている講座なのかは不明であった。

この異なる2つの目的や概念の違いが、教員に能動的学習の手法を学ばせるという同じ講座の中で、どのように整理され関連づけられているかは明確にはならなかったし、その意味もはっきりしなかった。講座受講前にこの2つが、どのように連携しあっているのか、教育手法としてどのように統合されているのかに疑問を持ったが、最後までこの疑問はぬぐえなかった。また、この2つを同時にしなくてはいけない理由もはっきりしなかった。

多分、この講座には教員に能動的な学習方法を修得させるという目的と、生徒・学生が社会人になった時に、課題を共有化して問題解決できる人材を育成する手法を修得させるという、異なった2つのプログラムが混在していたのではないかと思われる。

したがって、一般の教員が頭の中では曖昧なままに終わり、明確に整理されて理解できるのであるかという懸念が残った。そのため、概念やコンセプトのきちんとした整理が必要であると思われる。

(2) 教員の資質を向上させる観点について

講義を中心にして、知識やスキルの付与を重視した教育手法を転換することは、専門学校の教員にとって、かなりの覚悟がいることであろう。その意味では、アクティブラーニングは教育手法の意識変革を起こさせる上で、有効な誘引になると思われる。(教育手法としては、アクションラーニングの位置付けは今後の課題)。

しかしながら、アクティブラーニングはその解釈も手法も様々であり、また、教育現場や環境によっても、その有効性はまちまちであるので、どれが専門学校の教員にとって受け入れやすく、有効なのかについて慎重な議論をする必要がある。

特に、今回の講座ではインストラクター自身の経験知と個人技に依るところが大きく、リーダーシップ論、コーチング論、チームビルディング論、KJ法、ファシリテーション手法などが盛りだくさんになっていて、それらの様々な学習体験を経て、今日の手法を体得したものと思われる。体系的にすっきりとまとまっているとは言い難いため、一般的に他の教員が、そうしたスキルを身につけるには、より一般化し汎用化することが必要である。

したがって、専門学校でのアクティブラーニングはいかなるものかの基本的議論をきちんと詰めてから、教員への指導活動をしていく必要があると思われる。また、こうした取り組みを外部に委託するのではなく、外部の力を借りながらも教員自身が知恵と汗を出し合いながら、自分たちのものとして作り込んでいかないと(すなわち、アクションラーニングしていかないと)、新しい教育手法は本当の意味で、教員に身に付かず現場に根づきにくいと思われる。

(3) 「職業実践専門課程」とのつながりについて

2013年7月に『「職業実践専門課程」の創設について』が報告された。その中で、教員の資質向上について、「企業等との連携の下、職業に関連した実務に関する知識、技術及び技能並びに、授業及び学生に対する指導力等の修得・向上のための組織的な研修機会を確保する取組を評価する」としている。

こうした意図を考えると、教員に新たな教育手法や教員の指導力を身につけさせる研修という意味で、AL講座を行うことは意義のあることであろう。ただ、職業実践専門課程創設の目的を考えると、企業との連携を強く意識しており、研修でもそうした面での取り組みを求めている。

したがって、今回の講座においても、企業と何らかの形で連携していくことが望ましく、やり方はいろいろと工夫出来るが、プログラム開発や運営に大学や高校の教員の協力だけでなく、企業人との協働にも取り組んだ方が、より職業実践専門課程の構想に適っていると思われる。

IDデザインおよびALを使いこなす教員養成研修モデルの開発・実証

日 程 表

日 程	時 間	会 議
平成26年10月23日(木)	12:00～14:00	開発・実証委員会(第2回)
		評価委員会(第2回)
平成26年10月30日(木)	14:00～16:00	ID分科会(第3回)
	16:30～18:30	AL分科会(第2回)
平成26年11月10日(月)	14:00～16:00	ID分科会(第4回)
	16:30～18:30	AL分科会(第3回)
平成26年11月12日(水)	14:00～16:00	実施委員会(第2回)
		開発・実証委員会(第3回)
		評価委員会(第3回)
平成26年12月1日(月)	13:00～14:00	評価委員会(第4回)
	14:00～16:00	AL分科会(第4回)
平成26年12月15日(月)	14:00～16:00	ID分科会(第5回)
	16:30～18:30	AL分科会(第5回)
平成26年12月18日(木)	13:00～18:30	ID実証講座(1日目)
平成26年12月19日(金)	9:00～16:30	ID実証講座(2日目)
平成26年12月20日(土)	13:00～18:30	AL実証講座(1日目)
平成26年12月21日(日)	9:00～16:30	AL実証講座(2日目)
平成27年1月9日(金)	9:00(10:00)～	事務局会議(第3回)
平成27年1月14日(水)	14:00～16:00	実施委員会(第3回)
		開発・実証委員会(第4回)
		評価委員会(第5回)
平成27年2月5日(木) ※第130回例会同日	10:00～11:15	合同委員会①
		(全委員参加案内)
平成27年2月6日(金) ※第130回例会同日	13:30～14:00	合同委員会②
		(全委員参加案内)
	14:00～15:30	成果報告会
		(全委員参加案内)
※全国470校へ案内		

● 空路をご利用の方へ

- ・文科省へ提出する事業関係書類につきまして、提出期限の都合により、領収書・搭乗証明書は **2月13日(金)** までに事務局へご提出くださいませ。
- ・学校・企業内にて月毎にお支払をまとめ、翌月にならないと領収書がお手元に届かないなどの場合は、お手数ではございますが、別途お支払いただく等、ご対応をお願いいたします。